

19世紀よりナパの栄光を陰で支えてきた、知る人ぞ知る高名なファミリー。  
 最高のテロワールから造られる、シングル・ヴィンヤードのカベルネ・ソーヴィニオンとシャルドネ。  
 年産2,500ケースのワインは、アメリカ国内のみで販売されていた門外不出のナパ・ワイン。



## PIÑA NAPA VALLEY / ピーニャ・ナパ・ヴァレー

### 【ピーニャ家の歴史】

ピーニャ兄弟の父方の家系の歴史を辿ると、祖父母がハワイで一旗揚げようと故郷のスペイン・マラガを発ったのは1911年の事でした。その後カリフォルニアに渡った彼らは1920年代にラザフォードの農場に定住し、現在のワイナリーに近い、ナパの“シルバラード・トレイル”(ナパのワイン街道)にブドウ園を開きました。

一方母方の家系は、ミズーリ州から幌馬車隊を率いてナパ・ヴァレーに乗り入れた1856年以来、ずっとこの地に住みついてきました。ピーニャ家の高祖父にあたるブルフォードの息子、ラファイエットは農夫であるとともにワイン醸造家で、セント・ヘレナのすぐ南の“スタイス・レーン(STICE LANE)”ぶどう園(現在ロンパウアー・ヴィンヤーズが所有する畑)を開きました。またラファイエットは20世紀初頭、イングルヌック・ワイナリーの醸造責任者としてナパ・ワイン産業会のリーダーを務めていました。曾祖父のチャールズ・グロスは1880年代、ハウエル・マウンテンの“バックアイ”ブドウ園の目と鼻の先に入植。息子のチャールズ・ジュニアは、ラファイエット・スタイスの娘メイベルと結婚、そしてラザフォードにある“グロス・レーン”ブドウ園を切り開きました。

彼らの父親は、現在の“プランプ・ジャック&ラッド”ブドウ園のマネージャーを勤める傍ら、何人かのクライアントのブドウ園の管理を請け負っていました。そして1960年、彼は自分のブドウ園、“ジョン・ピーニャ・ジュニア&サンズ”を開きブドウを販売していました。



現在は、ラリーを頭にジョン、ランディ、そしてデイヴィの4兄弟が共同で運営しています。また3人の弟ジョン、ランディ、デイヴィが、著名な生産者達、71のブドウ畑を管理・運営しています。管理は根本的に土壌、台木、接ぎ木、トレリス、水、その他の非常に複雑で無限な広がりを持つ組み合わせで成り立っています。

ピーニャは栽培の専門家集団としてリーダーシップを示し、販売用のブドウ畑のみならず、ピーニャ自身の名前を冠した小さなシングルヴィンヤード・ワイン造りにも、その専門知識を大いに活用しています。高級ブティック・ワイナリーとしてだけでなく、“ピーニャ・ヴィンヤード・マネジメント”というナパ・ヴァレー有数の信頼のおけるブドウ栽培管理会社として、ピーニャは一層名を馳せているのであります。

### 【ピーニャ・ヴィンヤード・マネジメントが管理するナパのブドウ畑】

Seven Stones, Vineyard 29(WM Philippe Melka)、pott wine  
 V22(Danica Patrick/WM Aaron Pott)、EL Molino, Stags Leap Winery  
 St.Clement, Winston Hill, Nickel&Nickel(CC Ranch/ファー・ニエンテの姉妹ワイナリー)、Frank Family(ナパ・プレミアム)、Gargiulo Vineyards(ナパ)



### 【ピーニャの醸造責任者 Anna Monticelli の経歴】



醸造学の名門UCデイヴィスで学び、4年生の時にフランスソルボンヌ大学へ留学。卒業後はフランスのCH. シュヴァール・ブランで2000年VTの収穫に携わりました。その後ナパに移り、2年間 Seavey Vineyard、そして5年間をBryant Family Vineyardでフィリップ・メルカのアシスタント・ワインメーカーとして腕を磨き、2007年からPinaの醸造家となりました。3人の子供を育てる母でありながら、素晴らしいナパのシングルヴィンヤードのカベルネを手掛ける、今後の活躍に大注目したい女性醸造家です。

アグリ株式会社